

春の叙勲・褒章 受章者紹介

政府は、4月7日付で「第30回危険業務従事者叙勲」受章者を、4月28日付で「平成30年春の褒章」受章者を、4月29日付で「平成30年春の叙勲」受章者をそれぞれ発表しました。叙勲と褒章は、長年にわたりさまざまな分野で社会に貢献された人に贈られるものです。市内では次の皆さんが受章されました。

瑞宝双光章（危険業務従事者叙勲）



【消防功労】
千田 祐 さん
(更木・70歳)

昭和45年に北上市消防士となり、北上地区消防組合消防本部消防次長として退職するまで38年間にわたり消防防災業務に貢献しました。自主防災組織の形成促進や建築物の防火設備の点検などに尽力。地道な火災予防活動に励みました。受章について「先輩や同僚、後輩など関係者の皆さんに支えられたたまもの」と話していました。



【警察功労】
藤原 義弘 さん
(立花・71歳)

昭和41年に岩手県警察官となり、警視として退職するまで41年間にわたり、警察業務に貢献しました。交通課長となった平成7年以降は、課員の先頭に立って交通安全の啓発活動を実施。学校や職場、地域に赴き、具体的な事例を示して注意を促しました。受章について「皆さんや家族に支えられたおかげ」と話していました。

瑞宝单光章（危険業務従事者叙勲）



【警察功労】
小原 誠市 さん
(上野町・72歳)

警視庁警察官を経て、昭和50年から岩手県警察官となり、通算37年間にわたり警察業務に貢献しました。宮古警察署を皮切りに、県内各地の警察署のほか駐在所や交番に勤務。地域住民に信頼されるよう、コミュニケーションを大切にできたといえます。受章について「縁のないことと思っていた。身に余る光栄」と話していました。

藍綬褒章



【統計調査功績】
八重樫 慎一 さん
(和賀町岩崎・88歳)

昭和40年に国勢調査員に任命されて以来、平成27年の国勢調査まで50年間にわたり調査員を務めました。携わった調査は農業センサスや就業構造基本調査など多岐にわたり、対象者から協力を得られるよう粘り強く各調査に尽力しました。受章について「とんでもないものをもらった」と感慨深げに話していました。

瑞宝小綬章



【教育功労】
武田 倣 さん
(和賀町煤孫・71歳)

昭和48年に県立高校の教員となり、紫波総合高等学校校長として退職するまで35年間、高等学校教育に貢献しました。平成16年には、北上翔南高等学校初の校長として同校に赴任。地域とつながることを理念に設立された総合学科の教育に深く携わりました。受章について「受章できるとは驚き」と話していました。

昭和49年に県立高校の教員となり、沼宮内高等学校校長として退職するまで34年間、高等学校教育に貢献しました。遠野高校宮守分校を皮切りに、県内7校に赴任。各校の特徴を見きわめ、生徒に合った指導を心がけました。受章について「たくさんの方々を支えていただいた」と話していました。

【教育功労】
吉川 一郎 さん
(堤ヶ丘・71歳)

瑞宝単光章



【消防功労】
秋野瀬 信夫 さん
(和賀町横川目・78歳)

昭和39年に旧和賀町消防団に入団し、北上消防団副団長として退団するまで29年間にわたり防災・防火活動に励みました。印象に残るのは、昭和40年に和賀町切留地区で起きた火災。延焼範囲が広く、ポンプ車を運転して現場に向かい、消火活動にあたったといいます。受章について「団員みんなでもらったもの」と話していました。



【郵政業務功労】
小山 隆利 さん
(上江釣子・66歳)

昭和46年に旧郵政省に入省し、北上郵便局集配営業課長として退職するまでの約41年間、郵政業務に貢献しました。平成19年には民営化による大きな組織改正を経験。課長代理として、局員とコミュニケーションを取りながら業務に対応したといいます。受章について「まさか自分がもらえるとは思っていません」と話していました。



【統計調査功労】
佐藤 安友 さん
(和賀町煤孫・71歳)

昭和48年から現在に至るまで工業統計調査員を務め、これまで同調査に41回従事しました。その他、国勢調査や商業統計調査など携わった各種統計調査は計135回。対象者に合わせた丁寧な対応を毎回心がけ、各調査に尽力しました。受章について「まさに青天のへきれき。感無量です」と話していました。



【消防功労】
高橋 卓 さん
(相去町・73歳)

昭和48年に北上消防団に入団し、副団長として退団するまで44年間にわたり防災・防火活動に励みました。団員として、火災のほか台風の時期には水害などにも対応。災害時はすぐに屯所に駆けつけ、迅速に状況を把握するよう心がけたといいます。受章について「先輩、家族など皆さんの支援のおかげ」と話していました。